

自己評価の結果について

学校法人旭川カトリック学園 名寄カトリック幼稚園

2020年2月21日

1. 本園の教育目標

『おいのり・しんせつ・がまん』

- ・キリスト教の教えに基づいて、日々の生活の中で人を大切に、互いを思いやることができる豊かな心を育てます。
- ・明るく元気でたくましく、伸び伸びしたなかでも、礼儀正しい生活を大切にしています。
- ・友達と仲良く遊び、協力し、楽しく生活する中で、人への愛情や信頼感を感じ、すすんで善い行いをする心を養います。
- ・表現活動やさまざまな遊びを通して、神さまから与えられた力を十分に発揮し、豊かな感性、創造力を育てます。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

『みんな 大好き』

- ・すすんで挨拶をし、明るく温かい幼稚園を目指す。
- ・相手の気持ちを考えながら、友達との関わりを深め、思いやりの心を育てる。
- ・戸外活動を通して、自然のすばらしさや四季を感じる。
- ・神様のお創りになったすべての物に感謝する。

3. 評価項目の達成及び取組み状況

評価項目・目標	取組み状況
1 保育の在り方 保育の計画性 保育内容及び指導の在り方等を精査し、指導計画を策定し、教育内容の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none">・縦割り、横割り混合の保育形態を生かし、クラスの枠に囚われず、職員全員で園児達と関わられるように工夫し、話し合っている。・学期毎に職員で反省会を行い、保育を振り返る時間を設けている。反省会を通して保育者自身の反省点を再確認し、新学期に生かすことが出来た。また、互いの反省点を共有することで、職員同士がよりいっそう協力し合い保育を進められることが出来た。・食育は、各クラス毎にマナーや栄養素、自分で作って食べることの楽しさを感じる等の内容に重点を置いて取り組んだ。その結果、栄養素について興味が高まっている園児や、苦手な食材を食べてみようとする園児がいた。マナーに関しては、食べる時の姿勢や食べこぼし等で課題が残る。・自由遊びは、怪我への配慮や遊びの広がりをおねらい、昨年同様ホール内をコーナー分けしたり、伝承遊びやわらべうたを提供した。また、園児の様子や遊びの状況を見て、コーナー遊びの内容や遊べる場所等に配慮した。それにより、大きな怪我は減少傾向にある。しかし、伝承遊びやわらべうたは園児に定着するまでには至らなかった。・保育内容を見直し、自然に触れる機会を増やすことに重点を置いた。天気の良い日には、お散歩へ行ったり、園庭で季節の変化に気付けるような活動を取り入れた。今後も内容を発展させて、保育を計画したい。・今年度、折り紙製作を廃止したことにより、はさみを使う機会や折り紙に触れる機会が減った。そのことが影響したのか、はさみの使い方が身につけていない様子や角を合わせて紙を折れないことが多いと感じる。
2 幼児への対応 安全管理の徹底、幼児理解の向上、子育て支援その他の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none">・今年度より、年少児と満3歳児でクラスを別に設定した。それぞれの発達に合わせた環境や保育を提供することが出来、クラスに落ち着きが見られた。・職員1人ひとりが子どもとの関わりを深め、多面的に子どもを見ることにより、クラスの分け隔てなく園児を理解し、その理解を職員で共有し、保育に生かすことが出来た。今後も、子どもに合った支援が出来るよう努力したい。・クラスの状況を踏まえ、補助教諭の配置を増やし、園児に対してより丁寧な関わりが出来よう努力した。・預かり保育は、利用者が増加傾向にある。目が行き届くよう、補助の人員を配置した。今後は、質の向上も目指したい。
3 保育者としての資質 保育専門家としての能力、姿勢、責任等、資質向上を図る。	<ul style="list-style-type: none">・保育者として、園児の成長を自分の喜びと感じ、生き生きと保育に努めることが出来た。・カトリック幼稚園という意識を高めるため、月に1回キリスト教について学ぶ機会を設けている。・園児1人ひとりの縦割り・横割りクラスでの様子を共有することで、園児を多面的な視点から見守ることが出来た。・保育研究に時間を割けるよう、クラス担任が行う業務内容を見直し選別した。それにより、クラス担任にゆとりが生まれ、保育の充実へと繋がった。・補助教諭の園児との関わり方を見て、クラス担任も学ぶことが多くあり、切磋琢磨することが出来た。また、互いの動きを事前に打ち合わせることで、より良い指導に繋がった。

<p>4 保護者への対応及び 家庭との連携</p> <p>園児に関わる情報の発信や受信、保護者のニーズの把握、要望や苦情に適切な対応を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者から相談があった時には、職員会議等で検討し、園の方針と状況、平等性を考慮しつつ、出来るだけ応えられるよう努力した。今後も、保護者が相談や要望を伝えやすいオープンで温かい雰囲気作りを心掛けたい。 ・園児の体調やいつもと違う様子があった時、家庭に様子を伝えたり、家庭での様子を聞くよう心掛けた。その反面、顔を合わせる機会の少ない家庭には、あまり園児の様子を伝えられなかったことが反省点だ。 ・バスナビは、導入当初登録等への困惑も感じられたが、少しずつ定着した。今年度は、一斉メールを送る機会はなかったが、今後も不具合に対応しつつ、継続して活用する。
<p>5 地域社会との連携</p> <p>地域の自然や社会との関わり及び小学校との連携を図り、地域開放の努力をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保健センターやこどもらんどとの連携を密にし、子どもの成長を地域の機関と見守れるよう心掛けた。 ・小学校での給食体験は、良い交流の場となっている。今年度は、給食体験・音楽会の内容で交流の場を設け、連携を深めることが出来た。今後も出来るだけ多くの交流を図りたい。 ・親子教室の充実に努めた。園児とは昨年度同様焼きいもの行事で交流し、さらに今年度は満3歳児クラスと「雪遊び」で交流する機会を設けられた。また、今年度も、在籍する幼児の年齢に配慮して保育を計画した。今後も、幼児の「初めての集団生活の場」として馴染みやすい雰囲気作りを大切に、保育を計画したい。 ・園庭解放は、使用時間や遊びのルール等を周知するため、必要に応じて、おたよりに約束事を記載した。使用時間に関して、時々守られていないこともあるが、少しずつ守ろうという雰囲気を感じる。今後も約束事を守って、有効に使用してほしい。
<p>6 研修と研究</p> <p>研修・研究を積極的に行い、専門性を高める努力をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な分野の研修会に参加し、職員同士学んだことを分かち合い保育に生かすことが出来た。今後も積極的に参加したい。 ・今年度、「園児1人ひとりを共通理解するために」というテーマで園内研修を行った。各クラス担任がクラスの状況を振り返り、より個別支援が必要な園児の状況や支援方法について互いに意見交換した。その園児に合った支援方法や負担なく園生活を送るための指導方法等を、共通理解する良い機会となった。 ・園児の集中を集めるための工夫を各クラス担任が研究した。「みなさん」という声掛けだけでなく、様々な歌や手遊び、ペープサートを用いることで、園児の期待感を高めつつ集中を集め、保育に入ることが出来た。
<p>7 情報公開</p> <p>保育の現状や自己点検・評価の結果等を個人情報の保護に留意しつつ、積極的に園だより等で情報公開する努力をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と園との相互理解を深めるため、学校評価を実施し公表している。 ・園児達の園での様子がわかるよう、その日の出来事をホームページ（ブログ）で更新している。今年度も引き続き、ブログに写真を添付するよう心掛けた。また、各行事の様子を伝える為に、ポスター掲示を行っている。今後も、保護者に園での園児達の様子を伝えられるよう、ブログの更新（更新頻度を上げられたら…と考えている）、ポスター掲示を続けたい。 ・クラスだよりの内容は、保護者に園児の姿がわかりやすく伝わるよう内容を深め、レイアウトを工夫した。今年度も、横割クラスの様子を掲載した。今後も、様々な園児の姿を発信したい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<ul style="list-style-type: none"> ・各自の自己点検、評価の結果に基づき職員会議を行った。取り組むべき課題について、全職員が共通理解し、それぞれが取り組み状況を話し合うことで本園の方針を明確にし、課題を再認識することが出来た。 ・年度当初は職員の入れ替わりが多かったが、その後は安定した職員体制の中で保育を行えた。バスの添乗や教務補助等、教諭以外の職員が勤務することで、教職員1人ひとりが自分のすべき仕事に力を注いだり、研究を深められる状況が生まれた。また、新たな目線で園生活を見直すことで、園児も教職員も動きやすい環境作りの工夫等、互いにアドバイスし合い、より良い環境構成が出来た。 ・クラス担任の違いにより、保育に差が生まれぬよう、事前に保育の進め方等を確認し、クラス運営するよう心掛けた。新旧それぞれのクラス担任が互いに足並みを揃えようと意識したが、伝達が行き届かないこともあり、顔を合わせて話す機会が不足していたように感じる。 ・保護者の方からの伝言（バスや預かり保育利用等の変更）の伝達ミスが多かった。そのため、保護者の方に電話で確認することもあり、保護者の方の負担になってしまったこともあったように感じる。 ・個別支援が必要な園児が年々増加している。保育者不足が社会的に問題になる中で、補助教諭の配置を増加させることが出来たことに感謝している。今後も、手厚い保育が出来るよう状況に合わせて対応したい。
--

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保育の在り方	・園児達に提供する遊びや保育に関して、その場限りのものにならないよう先を見越して提供したり、継続的に発展させるよう計画する。

保育の計画性	・園児のはさみの使い方や折る力を養うため、特に年少児・満3歳児の保育の中で製作内容に配慮し、保育計画を立てる。また、園全体でも自由遊びの時間を利用し、製作活動に取り組みたい。
--------	---

家庭との連携	・登降園の方法の変更は、伝えもれがないように、電話か口頭と手渡しのメモで伝えてもらうよう、保護者の方にも協力をお願いし取り組みたい。
--------	--

6 . 学校関係者の評価

<p>◎評価方法は『A(満足)』『B(やや満足)』『C(やや不満足)』『D(不満足)』の4段階で、感想等も記入して頂く方法で実施。</p> <p>1. 「保育の在り方・保育の計画性」…A：22名 B：0名 C：0名 D：0名 縦割り・横割りの混合保育、クッキングに対する高評価を多くいただいた。また、「横割りクラスで行く園外保育が増えて良い。」「横割りクラスで過ごす時間を増やしてほしい。」という回答もあった。なお、「お散歩は続けてほしい。」「整理整頓出来るよう指導してほしい。」「昔遊びは、これからもどんどん取り入れてほしい。」等の要望をいただいた。</p> <p>2. 「幼児への対応」…A：18名 B：3名 C：1名 D：0名 年少児と満3歳児の単独クラス設定、補助教諭の増員に対する高評価を多くいただいた。また、「担任の先生だけでなく、全職員で園児を共通理解している雰囲気が良い。」「預かり保育での活動を子どもが喜んでいた。」等の回答、「冬場、玄関前が滑りやすいので対策をしてほしい。」「玄関から誰でも自由に入れる点が心配。」「教諭の人員は増えたが、目が行き届いていないと感じる場面がある。」等の意見をいただいた。</p> <p>3. 「保育者としての資質」…A：22名 B：0名 C：0名 D：0名 「園児と丁寧に接してくれている。」「出席カードのコメントからも、子どもを細かく見てくれているのがわかる。」「補助教諭の増員や業務内容の見直しにより、クラス担任の負担が減ることは良い。」「着替えた際、理由をお手紙で知ることが出来る。」「等」の回答をいただいた。</p> <p>4. 「保護者への対応」…A：15名 B：7名 C：0名 D：0名 教職員に対して「雰囲気が良く相談しやすい。」という回答、「園児の様子をもう少し聞けると嬉しい。」という要望を多くいただいた。また、「相談後の子どもの様子も聞けると良い。」「挨拶が出来ていない職員を見受ける。」「伝達不足や職員間で対応が違うことがある。」等の意見をいただいた。</p> <p>5. 「地域社会との連携」…A：20名 B：2名 C：0名 D：0名 給食体験に対する高評価を多くいただいた。また、「英語に触れる機会や外国人との交流があると良い。」「園庭開放のルールを明確にしてほしい。」という要望をいただいた。</p> <p>7. 「情報公開」…A：16名 B：5名 C：1名 D：0名 行事のポスター、ブログに対して高評価を多くいただいた。また、「ブログの更新回数を増やしてほしい。」という要望も多くいただいた。また、「行事ポスターもホームページに掲載されると良い。」「感染症欠席状況の表示は、玄関に入らなくても見える場所に設置してほしい。」という要望もいただいた。</p> <p>その他…「今年度、様々な変更点があったが良かったと思う。」「教職員の名前と顔を覚えられるよう名札を付ける等の工夫をしてほしい。」「運動会のプレイバルーンは感動した。続けてほしい。」「園庭遊具のやぐらは危険だと思う。」という意見・要望、聖劇に対する意見等をいただいた。</p>
--

7 . 財務状況

<p>大手監査法人である太陽有限責任監査法人(東京)の監査を受け、適正に運営されていると認められている。また、法人本部の財務状況報告により法人内各幼稚園及び学園全体の財務状況は職員の間にも周知されており、共通理解に立って効率的な運営に努めている。</p>
